

【トピックス】

● コロナきっかけの引越し検討、都心・郊外向けともに過去最高：大東建託

大東建託は4月26日、「新型コロナウイルスによる意識変化調査（第8回）」を発表した。新型コロナウイルスによる住まいへの意識変化やテレワーク実施状況等について、全国3,151名を対象にインターネット調査を行ったもの。調査期間は3月16日から29日。

「家賃は下がる」「不動産価格は下がる」という回答は、それぞれ55.2%（第1回：2020年6月）→23.0%、69.5%（同）→36.1%と大きく低下した。

「郊外への引っ越しを検討している」「都心への引っ越しを検討している」という回答は、それぞれ5.4%（同）→11.2%、5.3%（同）→9.8%とともに上昇している。また、「地方への引っ越しを検討している」「都会への引っ越しを検討している」の回答も、それぞれ6.5%（同）→11.6%、6.7%（第2回：2020年9月）→9.7%とともに上昇している。

[ニュースリリース：大東建託](#)

● 内覧用の鍵管理、現地キーボックスが7割強：全宅管理

全国賃貸不動産管理業協会は4月19日、「管理物件の鍵（マスターキー）の保管・取扱に関するアンケート」調査の結果を発表した。調査対象は同協会会員。有効回答数は109。

空室時、内覧の際に、現地キーボックスにおいて鍵を管理している会員が7割を超えた。一方で「これまでに暗証番号を変更したことはない」との回答もあった。キーボックス等の暗証番号を伝える際の手段としては、「電話」という回答が最多の79%。

また、自社保管していない回答者に、「不便なことは？」と質問したところ、約7割が「不便なことはない」と回答しており、鍵の預かりに関する意識にも変化が生じ始めていることがうかがえる結果となった。

[プレスリリース：不動産証券化協会（PR TIMES）](#)

● Z世代の「新築一戸建て」希望、他世代より顕著：パナソニックホームズ

パナソニックホームズは4月17日、「住まいに対する意向調査（2023年）」の結果を発表した。

購入検討層が強く求めているのは、「安全な住まい」、「快適な住まい」、「長く住める」で、周辺環境や間取り、設備、意匠などの項目より重視しており、とりわけ「住宅性能」で特に重視することについては、耐震性を求める回答が最多の67%となった。

また、購入検討層の80%が、ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）や全館空調システムの採用に関心を抱いている。

将来的な購入検討層では、Z世代は、「新築」で「一戸建て」の住宅を希望する傾向が他の世代よりも強い。

[プレスリリース：パナソニックホームズ](#)

● 住宅が買い時と思う理由、「価格が上昇しそうだから」がトップ：リクルート

SUUMO リサーチセンターは4月17日、『住宅購入・建築検討者』調査（2022年）の結果を発表した。

住宅の買い時感について、買い時だと思っていた割合は44%。思っていなかった割合は25%で、買い時と感じない人が2019年から徐々に増加。買い時と思った理由は「これからは、住宅価格が上昇しそうだから」（47%）がトップで、2019年以降最も高くなり、「いまは、住宅ローン金利が安い」と初めて順位が入れ替わった。

検討している住宅の種別は「注文住宅」が最も多く56%。「中古一戸建て」と「リフォーム」の検討率が、2019年以降で最も高くなった。

新築希望が68%で2019年以降ほぼ同じだが、「ぜったい新築」の割合は最も低くなった。

[プレスリリース：リクルート](#)